

令和3年度第3回加西市子ども子育て会議

日時：令和4年2月21日（月）

13:26～15:10

場所：加西市民会館2階視聴覚室

○事務局　少し時間が早いんですけど、始めさせていただきます。本日、A委員、それからB委員が欠席ということでお聞きしております。それから、C委員が少し遅れるということでもあります。今それ以外の方全てそろわれましたので、少し早いんですけども、始めさせていただきます。

　本日は委員の皆様大変お忙しいところ会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。まず初めに教育長からご挨拶申し上げます。お願いします。

○教育長　皆さん本当に寒い中、ありがとうございます。今日起きたらもう周り真っ白でゾッとしました。そうなんですけど、ちょっと春めいた日差しも出ておりますので。まず、もう皆さん十分ご存知のことなんですけど、冒頭に何度でも言いたいので、喜んでいただけるニュースをと思って発表いたします。加西市この4月1日からそこにも皆さんとこ行ってみたいプレスリリースが。小中特別支援学校給食、本当に全面無償化いたします。10月から、秋からになりますので、半期になりますけれども、ゼロー2歳児の保育料無料にいたしますので、それ以上も無料化してもう既にしておりますので、ゼロ歳から5歳全面無料になります。昨年7月から高校3年生までの医療費も一応無料にしておりますので、これら重ねたこのプレスリリースに書いてあるようなことを全部やっているのは、兵庫県の中でも加西市のみだと思います。

　ちょっとその給食費についてお話をいたしますと、給食費実は私が本当に教育長室に来たときには、今もそうなんですけど、公会計化ももうできておりませんので、いまだに保護者が一軒一軒集金に回っていらっしゃるというふう聞いて、ほんまにのけぞりまして、そんなところが日本にあるのいうたら、いやまだいっぱいありますよって言われて、教育委員会としてはやっぱりそれはちょっと幾らなんでもということで、市長に公会計化を早期に進めたいと言って申入れに行きました。それが昨年6月だったと記憶しているんですが、その際にもう市長、そんな公会計化とか何とか言っていないで給食費無償化しましょうよという話を教育委員会から一応提案をいたしました。提案はしたもののちょっとこれ大変なことですので、大分月日がかかるだろうなど、公会計化すらできてなかったわけなので、そのように思っておりましたけれども、それは半年後に決まると。さすがに申入れたほうも本当に驚いたぐらいで私はもう本当に市長の英断だったというふうに変感謝しております。

　ちなみに昨年の6月に内閣府が令和2年度の少子化社会における国際意識調査っていうのを発表、公開したんです。それによりますと日本では子育てしていて負担に思うことって何ですかっていうのの第1位がやっぱり出費がかさむと。約56%、55.6%。フランスでも日本と同じように出費かさむっていうの一番でして、でも、

それでも43.8%。やっぱりこれ、例えばスウェーデンでは体の疲れが61.6%と一番なんです。これ何でかって言ったら教育費全面無料だからです。だから、そんなお金がかかるってということで、大変だって心配しなくてももういいわけ。スウェーデンではとにかく18歳まで医療費も無料、学校給食ずっと無料と。2011年にはあえて栄養のある学校給食でないといけないよってというようなルールを付け加えるぐらいのような。それは2011年ですから、さすが世界の福祉国家だなと思います。皆さんこれ加西市も負けてません。スウェーデン並みや加西市はと思って私は大変誇らしく思っています。

少子化っていうのがもう本当に予想以上にやっぱりコロナもありまして、全国的ですが加西市でもやっぱりそれが急激に進みまして、教育にも大変ある意味で強い影響を与えております。ここにいらっしゃる方々、それぞれの各会でのオピニオンリーダーだと思っておりますので、どうぞこの給食の無償化も含めまして、できるだけ情報を拡散していただきまして、例えば私のところへももう既に息子が加古川にいるんやけど、加西市すごいなど。いや、すごいなだけじゃなくて帰ってきてくれるように言ってねって言うてるんですけど。それとか1つ、これもちょっと雑談のようなエピソードですが、私東京に長いことおりましたので、向こうにもなんか結構友達おりまして、横浜で本当に一部上場企業の部長とかやってる人が皆さんすごいと。私がふるさと納税も後押ししてくれてるんだよねっていうふうに言ったら、何と加西市にふるさと納税してくれて、わーみんなして応援してくれてるなっていうふうにすごい力強く感じまして、私は個人的にトマトでも送ろうかなと思ってるんですけど、そんなようなことで大変注目されることは間違いないです。ただ、情報を発信しないと変わっていかないと思いますので、UターンIターン、そしてここで子育てしてくださる方が1人でも増えるように皆様方のお力添えを本当によろしく願いをいたします。

本日は未来型児童館もなんか議題に上がるのかなっていうふう聞いております。実はついこの間、二、三日前に3月議会、つまり今年の初めての議会市議会でございます。3月議会で行う市長の施政方針演説の草案が実は回ってまいりました。何と西村市長は本年の施政方針のトップに子育てと教育の充実ということ掲げておられます。ちょっと私これものけぞりそうになって、うわー西村さんがこんなことトップに持ってきてはるのって信じられないみたいだね。よう知ってますので、でも本気で市長やる気なんだなっていうふうに思いました。それと加西STEAMっていうのも何回も言うと思ったんですね。うわーと思って、加西STEAMもビジョンの一つに挙げてあって、子育てと教育への市長並々なぬ熱い思いというものを受けて教育委員会も腹を据えて前例主義を廃して、未来の加西市のための教育に挑戦したいと思えます。未来型児童館の未来型ね。未来でございます。どんな姿をしてるんでしょうねと常に思っております。どうぞ前向きな議論とご提案をどうぞよろしく願いをいたします。長くなりました。

以上です。

- 事務局　ここからの議事進行につきましては会長にお願いすることになります。会長よろしくをお願いします。
- 会長　教育長、今日は公務退席はなしということで。
- 教育長　そう言われたんですけど、おります。私がおってほしいの、何やのあなたたちっていうたら、いやそんなことないですっていうたから、じゃおります。
- 会長　こちらも追い出そうという気持ちはありませんが、ちょっと。
- 教育長　大事な会議なんですよ。やっぱりこども未来っていうのはこの間も課長と事務局に言いましたけど、今加西市の最先端ですからね、本当にね。
- 会長　今、教育長のほうからメッセージがありましたが、その方向性の中で今日の本日の4つの協議事項もあろうかかと思っております。本会議の協議事項となっておりますけれども、今日ちょっと議題の中身を少し通覧しますと報告に重点を置かれ、そしてそれを受けて若干の感想なりご意見頂戴し、それを最終的には首長のほうに持って行って、先ほどの教育長のお話にありましたように加西市としての方針のところに移っていくということになろうかと思っております。一応、1時間半ぐらいをめぐりに議事を進めさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。
それでは、会議次第見ていただきますと4つありますが、順次これにつきまして事務局のほうから説明をしていただきたく思っております。よろしくをお願いします。

①小規模保育設置・運営法人の追加募集について

- 事務局　それでは、順次議事に沿って進めさせていただきます。1ページをお開きください。前回と同じ資料になりますけれども、中段以下のスケジュールの予定のところまで追記させてもらってますのは、審査選定を3月22日とさせていただきます。今の状況は、北条地区1件、九会地区1件の申込みがございました。この2件について審査をさせていただきます。皆さんにはこの小規模についていろいろご意見いただいたところですけども、前回今現在2園を開園している分については、そもそも待機児童対策ということで進めておったわけですけども、今回さらに2園というところで、今日やっと発表させていただいたというところですけど、もし無償化して入れない、枠がないのに無償化する意味がどこにあるのかというところで、実は2園を何とか受け皿を作りたいと。そもそもゼロ、2のところですので、そこについての入れる枠を確保しないと無償化もできないというところで今回進めさせたのが実情でございます。

開園については、来年度中に10月に1件目標としてますけども、ちょっと今からこれは応募された事業者さんのスケジュールによりますので、そこは決まっております。2件とも令和5年4月に開園となるかもしれません。というところでも、入りたくても入れないというところが一番保護者さんにご迷惑をお掛けしてしまうとこ

ろかなというところで、この事業を進めさせてもらっているところでございます。よろしくをお願いします。

- 会長　　ということで、今後のスケジュールについての確認ということで、まだ未確定要素も若干あるかもしれませんが、審査選定っていうのはどういうメンバーということちょっと、それは。
- 事務局　　前回、昨年今の愛の光ナーサリーさんとエクシオジャパンの審査会を5名の審査員で前回しておるんですけども、単年度でお願いしてるんですけど、その方は引き続き今回もお願いしております。税理士さんなり会計士さんなり、福祉の専門家、保育の専門家なりの方をお願いしているところです。ちょっとここではどなたか言えませんので。
- 会長　　厳正に進めていただければというふうに思います。今の追加募集について何か。よろしいですか。よろしく進めてくださいという。
それでは、2件目令和4年度認定こども園の申込みについて。これは2ページ、2枚目2ページですね。

②令和4年度認定こども園の申込みについて

- 事務局　　2ページですけど、差し替えをお願いしてると思うんですけども、手元に別紙ございますか。来年に向けて今回が最後の子ども子育て会議ですので、10月のこの入所申込みのときには、一旦は利用定員を示したところですけども、その後実情に合わせて利用定員の変更がございまして、今回53名の利用定員の減としております。これについては実はもう昨年度そもそも利用定員からいうと、申込者が少ないとか利用定員が多かった状況でして、実情に合わせてくださいとか、前後の今後の予測値と過去の実績とをかね合わせて利用定員を再設定していただいたというところで、トータルで53名ということで減員とさせていただきます。3歳から5歳児の教育が174名から164名。表の一番下ですね。保育が825名から811名。それからゼロー2歳のところが452名から423名ということで今回はこの加西市の利用定員ということでさせていただきます。

また、この小規模が開園するときは再度また枠を広げるというところがございます。今回小規模、先ほどの説明ですと2園増設しますけど、実際どの程度の需要があるのか、ちょっとまだ見込めないところですので、状況によっては増設もあり得るかもしれませんが、今のところは上限かというふうに判断しております。

以上です。

- 会長　　いずれにしても、希望者をはじくことなくきちっと責任持って受け止め、受け入れていきたいという考え方で数値設計ですよ。これについては頑なに確定じゃなくって、状況に応じて若干の調整ということは一。
- 事務局　　あります。ただ、利用定員ですけど、実際の申込みに合わせているもので

施設の定員というのがありまして、その施設で受け入れる面積はもっと十分にありますので、利用定員というのとは実態に合わせるべきものでそうさせてもらってます。

- 会長　　じゃ、もうキャパもきちっと整えているから、状況においては定員の拡大ということは当然問題なくあり得ると。
- 事務局　　柔軟に対応できるよう、認可定員のほうが上回ってますんで。
- 会長　　これにつきまして何か確認等ありますか。Dさん何か私のほう見てる。大丈夫。いい。見られると何かあるんかなと。
- D委員　　先生とかは大丈夫そうなんですか、人数。
- 事務局　　先生の確保ですよ。ちょっとそれは課題はありますけども、一応今回の追加募集で結局教員の確保というところが一応審査の要点になると思うんですけども、最終認可のときに確保できていなければ当然認可できないということになりますので、それは今回やっぱり認可してから期間置かないと人の確保というのは難しいです。一定の期間を置いてということで、10月のもしくは来年5月4月ということで進めたいと思っております。そこは事業者にお任せするしかしょうがないところがございます。
- D委員　　公共から引き抜きとかされたりしない。公立がどんどんおらへんくなる。条件がどんどん上がって行って。
- 事務局　　それは否定はできませんけど。公立も今後人の確保は何とかなしたいとは思っているんですけども、ご懸念のところは全くないとは言えません。
- 会長　　そこも慎重にして責任持って対応していただければと思います。
- E委員　　ちょっと私もよく分からない、理解が進まないんですけども、量の見込み調査があるとは思うんですね。年齢、この子供の数と今回利用定員が減りますということと、それから新たに2つ、2か所小規模園を作るところがうまく落ちていかないんですけど、もう少し詳しく説明していただけますか。
- 事務局　　量の見込み、子ども子育て事業計画では、3歳未満のところという480人の利用定員枠を設けようと、令和6年にはということにはしております。ただし、その枠はありますけども、実態として各園でそれだけのお子様を預けれる状況が作れるのかというと、枠はありますけど、実際はそこまで受け入れる余裕はないと、園の全体の運営を見ると。というのは100名以上超えてくると、やはり園全体をうまく回すというか、運営していくと。100名を超えると先生も30人、40人と増えてきますので、じゃそれをうまく運営をこなせるかというところで、皆さんは各園を見るとやっぱり100人、120人ぐらいが上限なのかなと実際としては子供の。
なので、それが今利用定員というところである程度制約をして、小規模保育園で別途十分な保育環境が作れるように家庭的保育ができる環境を別途作るほうがいいだろうということで、ちょっと話が混乱してきましたけど、やっておるんですけども。整理しますと482というのは、需要量の予測です。実態は今423名の枠を設けてま

す。今後無償化するということで、今は19名掛ける2の小規模園38名を確保していくということで進めようと思っております。この差っていうのは先ほど言いましたように実態として480名の運営が各園で出来るかと言うたら、ちょっとそこは運営の方法によるところがあるんですけども、そこに多少差が出ておりますけども。

○事務局　　ちょっと今事務局が説明しましたけれども、令和4年度におきます量の見込みにつきましては、ゼロー2歳の3号でありますけども、462名ということで令和4年度量の見込は462名であります。それに対しまして、今現在今回皆様方のところで承認を求めようとしておりますのは423名であります。今小規模保育園2か所を新たに作ろうとしておりまして、最大19名なんでありますけども、これが2園となりますと38名がプラスになりますので、423プラス38で461ということで量の見込み的にはそれに見合ったような計画でしようとしております。

ただ、出生数等が減ってきておりますので、これが当初の見込みより減り方がちょっと急激に減りつつありますので、そういうところがあつてまずは受け皿のところを量の見込みに基づいてのちゃんと確保した上で、政策的なことも踏まえてそのほうで加西を選んでもらえるようなそういうことにしたいということでの枠の設定としております。この一番下の表を見ていただくと分かりますように利用定員と在籍園児数の実数ということで、この在籍園児数の実数については多分5月1日現在のときをやっているんでありますけども、毎月園児数ずっと変わっていくんですけど、どこかで基準を求め、決めてはなんですけども、一応5月1日を基準としているところをやっているんでありますけども、ちょっとずつ増えていたり、またはちょっと減ったりするんでありますけども、枠としては今回特にでありますけど、ゼロから2歳の3号のことについて今我々ちょっとそこを何とかしたいと思っておりますので、そこについては先ほどE委員がおっしゃられました子ども子育て計画全体の一番大きな計画、これに整合させたものということになるというふうに考えております。

○会長　　E委員、よろしいか。

○E委員　　多分、出生数とか人口の流出流入も含めたちゃんとした見込みができてい
るものだと思っていたので、これだったら3号さんだったら楽々入れる数ですよ、
この数字から見ると。だから、それでまた作られるのはいいし、私は構わないんです
けども、何かえって思ったんです。それだけです。

○事務局　　シミュレーションについては前回資料でちょっとお示しさせてもうたところがあるんですけど、減り方が急激なのは急激なんですけども、毎年300人から今200人切ってるところですけど、200人を確保したいと、ちょっと言い方悪いんですけど、将来的に加西市の人口推計見ますと危機的な状況に陥ってますので、200名の出生、または積極的に子育て家庭を加西市へ誘致するというようなところで、目標としておるところで、200名からして8割程度入所していただく目標を掲げております。

○会長 加西市の子供の原点は、いろんな地域に比べて非常に激しいものがあるかと思いますが、先ほど教育長おっしゃった無償化等々と加西市いろんな形で魅力を感じていただく中での若干の整形中みたいなところも想定されながらの流動的な三段構えと言ったらおかしいんですけど、そういう形でのご提案だと思いました。認定こども園の教育の分野もありますが、福祉っていうのは極めて現実に流動的に柔軟に対応していくっていうのが一つの戦略だと思いますので、余り固定的に立ち位置を決めるものでもないと思いますので、現実合った対応の仕方ということでいろんな不安要因はあるかと思いますが、そういうことも配慮しての一つの提案だと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、3番目に北条東こども園民営化取組状況について、これは資料ナンバーの下ページ、3ですね。

③北条東こども園民営化取組状況について

○事務局 お手元の資料3ページをご覧ください。公立の北条東こども園につきましては、このひと月先の令和4年4月1日の民営化に向けまして、今手続を進めているところでございます。今回2月の21日ということでこの北条東こども園の民営化の取組の全体のまとめということで経過のほうにまとめさせていただきました。もともと定員110名の公立園のこども園としてあったんでありますけども、今度民営化になりましてちょっと内訳は今までは1号40名、2号40名、3号30名の110名の定員であったと思うのが、今度北条東すみれこども園として民営化になったときに1号が実際の1号っていうのは教育利用でありますけども、実際の利用定員に近いという形で1号15名、2号68名、3号27名、この合計110名ということでその内訳を変えております。

それが先ほどもまでの課長が説明いたしました令和4年度の利用定員の変更のところにも関わってくるわけなんでありますけれども、そのような状況でございます。そして、今の実際のまだ多少の微調整がございまして、定員110名に関しまして現在北条東すみれこども園の入所を希望されている方が115名ということでございます。公立の場合ちょっと定員割れというのが結構あったんでありますけれども、私立になりまして早朝保育、延長保育等が充実されたこと等によりまして、やっぱり希望者のほうも今までよりもちょっと増えたのかなというところでございます。

そして、一番保護者の方が気にされる保育の内容、質の関係なんでありますけども、この辺りのことも移管事業者であります社会福祉法人無量会さんのほうもそのことは十分認識されておまして、その辺り公私連携幼保連携型認定こども園ということで、ただ単なる民営化ではなくて公私連携ということが付きますので、公立園のやっていたことをそのまま継続をしていただき、さらに私立園としての特徴を入れてもらうというそういう形でありますので、その辺りも保護者の方が選ばれる選択肢とし

してその辺りのことも十分PRをされた結果ではないかなというふうに考えております。

この資料のほうにつきましては、昨年の12月の議会で市のほうの条例規則の改正を行ないまして、民営化ができるような形に変更いたしました。それを持ちまして、今度財産の処分のほうなんですけれども、その辺りのことの手続も補助金での改修、あと起債と言いましてお金を借りて修繕等をこども園にするときに北条東幼稚園から北条東こども園に変えるときにやっておりましたので、その辺りの手続も並行してやりまして4月に移管ができるということでございます。人為的なことでありますけれども、スムーズな、今先ほど保育教諭が公立から私立になると先生がごろっと変わってしまうんじゃないかというようなご懸念がありました。もともとからありました。そのことに応えるために合同保育ということで移管事業者に所属する保育教諭が今の公立でありますけど、今の園に来ていただいて一緒に保育をする。要は子供さん方に顔を覚えてもらうというようなことをやっております。

これが6月から始めまして、この資料の4ページに書いてあります数値は日数であります。交流で行ってもらった日数であります。朝8時半から5時15分までの基準ということで、最終3月に調理員さんも1名入るんでありますけれども、最終的には9名の保育教諭が入りまして、合同保育ということをしてもらっております。だいぶ名前も顔も園児にも覚えてもらいまして、当然送り迎えのときの保護者の方にも覚えていただきまして、その辺りのことはスムーズに計画どおりに進んでいるのかなというふうに思います。

そしてあと、もう1つのご懸念と申しますか、公立園から私立園に移籍をする保育教諭がいるかということでございますが、これもまだ今具体的にはお名前出して言えないんでありますけれども、数名おられます。ということで、この辺りも加西市には会計年度任用職員としての保育教諭がおりますので、その会計年度の方からの移動が今C委員来られましたけれども、無量会さんのほうに移籍をされるという方が何名かおられますので、この辺りも合同保育での交流の保育士9名、調理員1名の10名プラス公立園からへ私立園への移籍をされる方も数名おられますので、全体北条東すみれこども園の職員数全体27、8名の中の半数以上がそのまま知った顔がおられるということで、このへんにつきましても当初その辺りが見込めませんでしたので、引継ぎ保育等4月以降の引継ぎ等についてもいろいろ想定をしておったんでありますけれども、結果今現在そのように先が見えてまいりましたので、その辺りも踏まえて修正をしながら円滑な民営化への引継ぎということでできるものというふうに考えております。

それで一応、引継ぎ保育でありますここでは9月末ごろと書いてありますが、ちょっと事務局とも協議をして、1年間引継ぎ保育についてはまず、その年度の途中でというんじゃなくて、1年ぐらいの期間はやっぱり見てもらったほうがいいかなということでの。ちょっとこの辺りもまだ確定しておりませんので、今度4月以降の引継ぎ

保育につきましても人事異動等で配置が確定しました段階で、詳細については決めさせてもらいたいというふうに考えております。

以上です。

- 会長　ありがとうございます。この北条東については、枠組み移管はもう既にきちっと確定して進められるということ。あと問題はソフト環境についてギクシャクしないようにということが配慮されての1つの提案であろうと思います。子供にとっての1つのパニックにならないようにスムーズに子供自身も移管していく環境の中で自然体で対応できるようなことを配慮すること。保護者にとってもやっぱりそのことは当然のことだと思いますし、スタッフに関しても大事なポイントだと思いますので、そのへんは丁寧に異論のないように進めていただければと思います。

これに関して特に確認等とございますでしょうか。

- F委員　すみません、質問が3点ほどあります。この北条東の民営化のお話はよく理解できたんですけども、今後公立のこども園が民営化っていうことは進めるということとは考えられているのでしょうか。

- 事務局　一応基本方針ということで、今現在北条東を含めまして公立園が今5つまで統廃合を進めてまいりました。最終的には今の大規模園であります北条ならの実、それから泉よつば、この2つについては公立として残していくということですが、加西こども園、それから賀茂幼稚園、この2つについては状況によりましては、民営、もしくは廃止と言いますか、そのような方向での位置づけということになります。いずれにしましても公立園のほう、人口が子供の人数がどんどん増えてきてくれば全然問題ないわけなんでありますけれども、このまま推移していきますとやっぱり公立園のほうで、公立と私立のちょっと役割分担というたらおかしいんですけど、そういうものをやっぱりしていけないといけないのかなということで、公立のほうにつきましてはちょっと利用定員のほうも絞っていくという形になっていくのかなというふうに思います。

私立さんのほうにつきましては、やっぱりいろんな経営的なこともありますので、できるだけその希望されるところで受け入れてもらえるような、そういう体制を取っていきたいというふうに思っています。そのためにも今から我々の大事な仕事なんですねありますけども、保育の質の確保ということで研修の在り方、公私連携をした協働での研修の在り方、あとは小学校への接続、幼小の接続その在り方、そういうことについて私たち行政側のほうとしまして、私立さんのほうが主に、幼保業務を担うようになったとしてもその辺りが円滑にスムーズに引継げるような体制づくりとか、その辺りの環境整備を我々のほうがやっていけないといけないのかなというそういう認識でおります。

- 会長　今の1番目の質問は、まずは民営圧迫しないという1つの市の方針の中での考え方である。そのときに荒っぽく移管したよということ、あとは知らないよでは

なくて、ちゃんと教育の質保証ということを大事にしていく1つのいろんなメニューと言いましょか、対応ということを語られたと思っております。

2つ目の質問何ですか。

- F委員　今のお答えにもちょっと重なる部分があるんですけども、一番今合併になったり、それで小学校と違う校区に近所の子でも全然違う校区に行ったりで、今度小学校に上がるときに全然馴染みがないというか、そういった形の子が結構増えてたりするのをちょっと見たりするんですけども、やっぱり前は大体地元の保育園から小学校行くということで結構交流とかが多くあったので、割とスムーズに小学校に行けてたんですけど、今事務局がおっしゃられてたとおり公私ってということで何か市も一応そういうふうなスムーズにこうするっていうお考えがあるのならば、心配は若干減るんですけども、実際のところやっぱり各園の方針でいろいろな教育があると思うんですけども、保育園でも自由にする保育園であったり、小学校に向けて座るといふとかもあるんですけども、その辺りは市はどのへんまで民間の保育園に指導というか、先を見越して小学校行くためにこういう教育のっていう形での指導まではされるんですか。
- 事務局　幼小の接続については、基本的な方針をちゃんと示してそれについての実施というのを促すということを今やろうとしているんです。ここ数年ですけども、コロナ禍がありまして公立のほうでも幼小の接続というのはなかなかできかねているところが結構ありまして、これも上の6階のほうの学校のほうとも関係するのでありますけれども、この辺りのやり方、我々のほうがやろうと思っても受け入れ手のほうが今コロナがあるから特になんですけども、なかなかタイミングが合わないとか、ちょっと例えば今のような時期であったら交流をとということを言っても受け入れてもらえないとか、そんな場合があります。だから、基本的な計画というのは将来的にそれは我々のこども未来課のほうで幼小の接続の計画については、作っていく予定でありますけれども、ちょっとその実施につきましてはそういうふうなことをしたいんですけれども、ちょっとその辺りの状況を見極めながらということになりますので、せないかんということは分かるとしても現実にはちょっとできてないところが今のところあるということです。
- 会長　今の質問については、市がずっと介入するっていうのは、また返って不都合なところがありまして、私立も公立も、例えば幼稚園教育要領、保育所、保育士、認定こども園の教育保育要領の中に幼小連携、地域との連携とか、そういうことをきちんと公的に示してありますので、それを遵守していただける民間の園であれば、特に今の点はそんなに問題ないと思います。C委員のところどうなんですか。今の質問で例えば、小学校との連携とか、子供たちの地域社会との交流とかっていうのはどうですかね。決して民間だから、それに背を向けて内向きだけでやるっていうことはないですよ。

○C 委員　そうですね。まず、会長おっしゃたように我々にはやっぱり保育園、文
省から出ておりますね。幼稚園の教育要領とか保育指針というのがありますが、こ
のたびこども園になりましてもう新しくこども園のそういう指針があつて、それをま
ず1つそれは憲法みたいなもんですから、それを守っているのは認可を受けた私立公
立関係なしに、だからこそ認可を受けると。まず、大枠はあるわけですね。そこで、
私立というのは私立のそれぞれの味と言いますか、やり方があるわけなんですけども、
これはこれで私立というものがなければ全部やり方が一緒に大学でも学校でも全部
私立と公立というのは、やっぱり私立は私は前から思ってるんですけど、私立がある
ことによってやっぱり文化の幅というのはものすごく広がってくるんですけど、公立
だけではいけない。私立は私立の大きな役割があつて、それぞれ宗教がバックになる
とか、仏教であるとか、キリスト教であるとか、あるいは創設者の方の理念とか、そ
ういうものを真ん中に中心に掲げてやってるわけですが、それは非常に大事なことで
このカラーはもちろんこれは残していくというか、なければいけないと思いますが、
基本的な大枠のものが決まっておりますので、会長のおっしゃるとおりにそれを遵守
していくということは我々の1つの義務です。

ですから、余り行政が指導するとかいうのは、教育の現場ではそぐわないと思いま
すね。それをやってしまうと返っておかしくなるから。大枠があるんだから、そこで
私立なら私立の味を持って、その枠から外れないようにやるのが大事かと思えます。
あともう1つは小学校の連携ですけれど、これは実は受入れ先の小学校の校長先生に
よつてもものすごく結果が変わるんです。小学校へ入つたときのやっぱり最初のスム
ーズに接続がいくようにということももちろんあるんですけど、学校によつて校長先
生は非常にそういうのを理解られる方と割と冷淡な方がいらつしゃいまして、私た
ちもこれもうこれも何十年も前からですよ。何十年も前から一緒に授業というか行事
に参加させてくれとか、見に行かせてくれと言うんですけど、校長先生が変わると
冷淡といいますかね、受入れは余りしてもらえないときがありますね。

それから、ちょっと言わないほうがいいかもしれない。私立のひがみかも。

○会長　マイナーな話、ちょっとここだけの話どうですか。

○G 委員　私の知る限りそんな冷たいことを思つてないように思うんですけど。

○C 委員　私立のひがみみたいになつてしまつて、余り言いたくないけど、確かに
校長先生によつてかなり雰囲気が変わるとするのは1つあるのと、もう1つはひがみ
ではございませんが、私たち民間、私立が行くのと、それから公立の園が小学校に行
くのとどうもちょっと受け入れの暖かさが違うんです。

○会長　そういう辺りがちゃんと市がする責任持ってますから。

○C 委員　何か私立はちょっと別でしょうみたいなところが。

○H 委員　私、今は兵庫大学短期大学部という肩書で来させていただいてるんですけ
ど、この前は40年神戸市の公立の幼稚園に勤めました。そして、ちょうど子ども子

育て支援新制度の辺りで無償化になった辺りから、もう公立の立場っていうのが崖っぷちって言われるぐらい半分に減ったんですね。40年の間に78園から36園ぐらいに減りました。それから、もういろいろ諸般の事情ということで、公立はその話はちょっと別として、それで公私幼保合同研修っていう、やっぱり保育の質の保証ということで29年度辺りから神戸つばめプロジェクトというのを作りまして、公立も私立も幼稚園も保育園もみんな一緒に研修をしましょう、でも時間的な勤務の都合でちょっと夜の時間帯っていうことで神戸のハーバーランドで6時から8時っていうような時間帯で細々とやってきました。でも、まだ続いていると思います。

あと、公立は園児ということで小学校区にあつて、そこへ大体が行く。そのへんの小学校と幼稚園の研修っていうのを園区で持っていたんですけども、今までは公立同士っていうことだったんですけども、もう29年度辺りから私立も公立もみんな研修をするっていう制度に徐々に変わってきました。それから、神戸インクルーシブ相談員ということで転職された小学校の校長先生が兵庫区だったらしたりとか、区の規模によって配属されて、そこにある公立の幼稚園に籍を置かれて、公立も私立のところも幼稚園も修学に関する不安な保護者の方に相談するというので、最初は配慮を要するお子さんに対する支援だったんですけども、それがだんだん広がってスムーズに小学校に進学できるようになっていうことで、私立幼稚園にも足を運んだりっていうような壁がだんだんなくなってきたっていうような取組を5年目ぐらいのときにされています。

- 会長 先ほど行政の事務局のほうから公私合わせて研修をするという、そういったところに今、F委員がおっしゃった辺りがちゃんとのつかっていくと思いますので、私も随分前ですけど、滋賀県でも公私連携の研修システムというのをずっとやってきました。今までは何かちょっと距離感があつたり、合同で研修することによって、それぞれの善し悪しっていうのを生かし合いながら、もう当たり前のようにさっきの幼小の関係とか、地域と園との学校との関係とか、それは余り色分けされなくなりつつありますので、ぜひ研修するときには第2の質問に対してその辺りは市のほうが特別の配慮していくということは求めたいと思います。これで第2の問題、そんなにご心配されませんよね。ちゃんと公的に今、C委員おっしゃったように認可されたっていうのは、幼稚園教育要領等に基づいて認可されているんであつて、勝手にやってるわけではありませんので、そこ余りご心配ないと思いますね。

3つ目の質問どうぞ。

- F委員 3つ目の質問も先ほど公立と私立が連携して研修っていう形でお聞きしたので、私も息子は公立で娘は私立でお世話になったんですけども、公立の良さも体験してますし、私立の良さも体験しているので、決して私立が私のちょっと先ほど言い方悪かったかもしれないです。私立がちょっと教育がついていう部分で申したわけではなく連携していかないと、やっぱりなかなかスムーズに学校になじめないというのが、

現状今私の小学校とかでも今回の1年生の子たちとかでも、すごいなじめない子たちが多すぎてっていうのも見たりするので、その辺りが子供たちが可哀想かなと私は思ったので、2番の質問でそういうスムーズに移行していただきたいと思いました。

2番の質問にちょっと絡んできますけども、加西市は小学校からSTEAM教育ですごく掲げているんですけども、そういったことを幼稚園までには求めるのは難しいですけど、こういうことを小学校でしてますよっていう形を研修がもしあるのならば、こういったそれに向けて、予備段階でそういうことも取入れるというか、そういうことはお考えがあるのかなっていうところが3つ目の質問になります。

○会長　これはどうですか。

○教育長　STEAM、本当は幼からやりたいんです。すごくやりたいんですけど、でももうちょっと時間ください。というのは、小でやるのも中でやるのも今もう大変な状況で、やっぱり新しいことをやるっていうのは皆さん理念では分かっているけど、現実にはなかなかそれを授業に落とし込むことも。今日午前中も実は今、会長最初に私にちょっとおっしゃってたんですが、文科省と直接リモートでSTEAMをどうするかっていう話をずっとしておりまして、本当にやる以上は積極的にやりたいと思っているんですけど、幼までいくのに小もなかなか大変ですね。

でも、小が一番今進んでるかな。なぜかという小は例えば地域とすごく密接にやっぱりつながっていて、地域と生きた交流みたいなことがすごくありますので、地域の企業なんかも大変協力的ですし、今日なんですけど、それでもやっぱりなかなか時間割に落とし込むということが難しいもんです。だから、特例校認定もらうとか、もらえばいいってもんではないとか、今いろいろと研究しています。ちょっとすごく1つだけC委員おつてのときに私どうしても言うておきたいんですけど、STEAM教育、もしかしてエリート教育ちゃうかって1回言うたことあるんです。これ私も違うって思って、すごく思ってたんですね。なぜかというSTEAMってすごくやっぱり英語の綴りとか、そんなんやってるから何となくちょっと頭のいい子だけ向けにエリート教育するんかって、全く反対でして。

STEAMというのは、それこそ何度も今日言ってあれなんですけど、西村市長はなぜSTEAMをやりたいと思ってくれたか。それはやっぱりSTEAMが21世紀のヒューマニズムだということをちゃんと理解して下さったので、それで僕やりたいですって言うて下さった。それはまさに私が一番考えていることでして、例えば最先端機器を使うことを目指してるんじゃないんです。最先端機器を使うことによって、今までできなかったこととか、みんなそれぞれ個々に自分の良さを伸ばすこともなかなかやっぱりできなかったことを、そういうものを道具にしながらやっていきましょうよっていうことですので、F委員STEAMとか言うて下さって大変有り難い。

加西STEAMというので今年度もやっていますけど、来年度から市を挙げてやります。やりますのでどんどんやっていきますけど、ちょっと幼稚園までなかなか。やっぱ

り現実も難しい、でも幼稚園は実はやってはるんです。要するに小学校行って初めて国語や算数や理科やって分かれるんですけど、幼稚園の場合は全部一緒に自分たちの生活の中で学んでますので、本当はそれSTEAMなんですね。だから、もうちょっと幼稚園の先生方、こども園の先生方にもSTEAMという概念を理解してもらえば、比較的やりやすいかなと思っていますので。

- 会長 教育長、ありがとうございます。STEAMというのは、当たり前の学びのスタイルですし、教育の当たり前のスタイルということとして考えていけば、特別のものではないと思います。ただ、今3つ目の質問がありましたような教育長のとりあえずできるところからまずやって、その段取りが日常化されていく中で幼児期の教育保育においてもきしまずにランディングさせていきたいという、恐らく事業設計だろうと思うんです。ですから、旧日本の体制だったり一発号令で全部幼小中高から全部同じスタートラインに立ってやらないといけないっていう、そういう時代じゃなくて、できることを確実にやって、きしまないところで手堅く全体としてやっていく、底上げをしていくっていう考え方。これが一番転げないと思うんですね。
- 教育長 今日文科省が言ってたのは、義務教育でやっていただけるのは大変有り難いと、全国のフラグシップになりますと。そうなんだけど、じゃ高校はどうですかって、高校もやってますっていうような話が。高校実は播農（県立播磨農業高校）なんかやってることはまさしくSTEAMなので、播農とも今度市は連携協定結びます。北条高校ちょっとどうなるか、まだちょっと見えてないんですけども、だからそういうことからいくと、幼稚園も実は愛の光さんとそれから永井先生のところもなんかも私立なので、STEAMとかやってもらおうと大変嬉しいんですけどね。
- 会長 それはまた聞き置いといていただいて、軽くうなずかないようにして。
- C委員 私も前に何か役に立つような人のSTEAMについて、そういった当座役に立つ人間を作るためのエリート教育がSTEAMですかっていうような失礼なことを申し上げたわけなんですけど。
- 教育長 そうそう、私結構頭に來たんですよ。違うとか思って。
- C委員 何回も言われるからだいぶ頭に來たんだと思います。それからいろいろ教育長とお話も聞いたりして、STEAMはそうじゃないと。当然役に立つ人間も作るための教育っていうのは私はちょっとおかしいなと思いますけど、そうじゃなくてもっと根の部分ですね、人間として生きていくための根の部分を総合的にアートを入れてということの教育を進める、それが理解できたと思います。分からへんでもそういう方向が。
- 会長 STEAMも今国が今日の文科省のやり取りされてて、非常に加西市の取組を非常に文科省注目しとるんです。引くに引くわけにいかんね、やってください言われて。頼むね。また皆さんご協力いただきたいです。高等教育に限らないんですが、今さらに進められているのがDXなんですよ。デジタルトランスフォーメーション

というものが今学校では最初からその教育をやっていく。大学でまずやって、高等でやって、中学校、小学校でやって、やがて幼児期の教育保育というのはDXになってくるだろうというふうに思うんですけどね。一齐に同じスタートではできませんので、できるだけやりながら実績をじわっといろんなところに伝えていくってことで、そのほうが加西市転げなくて済むと思います。第3の質問に対してはいろいろ回答いただきました。

時間調整もありますが、次に最後の4つ目の課題で未来型っていうことなんですが、若干ちょっと事務局とちょっと私早めに来たので、皆さんのほうで令和4年度からちょっと本格的に検討したいということをおっしゃったんですが、それを含めてこの未来型児童館の検討状況についてご説明いただけますか。

④未来型児童館の検討状況について

- 事務局 資料の5ページ以降なんでありまして、これにつきましては、この間の第1回目の子ども子育て会議にも同じものをつけております。要は令和3年度の上半期といいますか、それまでワーキンググループということで検討を進めてまいったんでありますけども、後半部分につきましてはちょっと今先ほどもありましたけども、加西STEAM教育のこととか、コロナ禍の対応といいますか、どういうふうに変わっていくのか、あともう1つはその状況の中でゼロ〜2歳小規模園を中心とする施策のする展開ということのほうにちょっと主力のほうをそちらに移したので、この未来型児童館ってというのが今慌てて造ってしまっただけで余り意味のないものになるのであれば、もうちょっと時間をかけて再度考えたほうがいいんじゃないかということで、後半部分は余り進んでないっていうんですか、そういうことなんです。

こちらのほうが一番危惧するのは、要は造るからにはちゃんと使ってもらえる目的とか、利用者がちゃんとあるようなもの、そこの施設造って十分活用されるようなものでないと造って終わりでは、余り意味がないんじゃないのかというようなことがありました。これはもともと市のほうは、行政のほうから造りますと言ったものではないということなんです。皆様方、子ども子育て世代の方からの強い要望によりまして、未来型児童館、こういうものを造ってほしいということが、それを受けて要は総合計画なり、上位計画の中に位置づけて順番にやっていたんです。

ただ、アンケートとか聞いたのは平成28年ぐらいのアンケートでありました。そこから今まで5年ほど経っておりまして、その間に社会情勢とか、いろんなものが変わってまいりまして、あと出生数もう激減していった状況で、そういうような形でそのままの考え方で進んだらいいのかというところを今回ちょっとそういうことありまして、余りにも取り巻く環境が変わってまいりましたので、一旦ちょっと今までの検討を止めて、再度また仕切り直したほうがいいのではないかと考えております。このことにつきましては、市議会のほうからも関心を持って見ておられます。

今回の3月議会、次もうすぐ開催されますけど、3月議会での市長の市政方針にもありますけども、この未来型児童館のことについても触れられていますが、そのことについてうまく今我々がやろうとしている子ども子育て支援というところでうまくそれが組込めるように、更にですけれども加西STEAM教育の中の拠点施設となるように制度設計等もう一度やっていかないといけないんじゃないかなということ、だんだん規模というか、そういうものも当初から比べると、もう何倍にも大きくなっていておまして、果してそれでいいのかということもありまして、我々進める側としたらそれを自信を持って進めるのが本当かもしれませんが、ちょっとその辺りも迷いというものがありまして、令和4年度に再度そこから検討をして、令和3年度については余り動けないというか、それ以上のことをちょっと動かさずにもう一度やろうということになったということでございます。

ちょっとこの後市議会の答弁とか見ていただくと、我々のもともと意図しとったことも汲み取っていただけるかなということで、12月議会でのやり取りと言いますか、それを記録したものを今回資料といたしまして、添付をしたところでございます。

以上です。

○会長 添付してある資料についてはちょっと目を通していただいて、今日これをどうぞっていう議論ではなくて、課題意識を持っていただくためにちょっといくつか資料を目通ししていただいて、次年度令和4年度のいろんな子育て会議の中で今までどっちつかずの検討してきましたけど、ハンドリングの私の責任でありますけれども、少し焦点を置いてこのへんについて新年度に検討していこうかということですね。ただ、私個人の意見として言うと余りかちつとしたものを創るとよく国や県のすぐ心配するのが稼働率なんですよ。それをやられるとちょっと辛いところがありますよね。造った以上は稼働率がどうだったっていうことで、どんどんどんどん意味もない事業展開していくっていう、予算も投入しているようなことがあるかもしれませんよね。限られた加西市の200億円ですか。

○事務局 224。

○事務局 一般会計予算としては224億。

○会長 多いか少ないか分かりませんが、その中で館に対して相当な財政表明をして稼働率も上手くいかなかったら、「何や」ってこうなりますので、造る以上はやっぱり市民の方々が普段着で日常的に出入りできるような、そういったところで余り完璧に建物だけをひけらかすようなことでなくて、ソフトのところもうちょっと我々が検討もしながら、いろんな立場でいらっしゃいますので、話し合いながら小っちゃくていいじゃないですか。すごくいいことですがけれどもという、そういったものを造っていくのがいいのかなとか、そういう語りを未来志向としてぜひ皆さん方の立場からのご意見頂戴して検討していきたいということで、課題意識を継続させていただくということで、今日はそのぐらいでよろしいかと思います。

- 事務局　　今、我々の中でもちょっと課題ということで思ってるんですけど、なかなか行政の中で計画して設計をして造るといふときに、突飛なものをやろうと思えばノーマルのやり方でいけば、どうしてもありきたりなものになってしまうんですね。びっくりするようなどこもやってないようなものを造ろうと思えば、やり方自体もちょっと突飛なやり方というか、そういうやり方でないと提案型のプロポーザルとか、そういうものを使わないとノーマルなやつでいくと、なかなかどこにでもあるようなもんしかできないというのは、課長とかいろんなところ、今回NHKのドラマの気仙沼のところで窓がごっついとところで掃き出しの部分のすごい建物、そういうものも明るくていいねとかやっと思ったんですけど、めちゃくちゃお金が掛かるとね。何かそんな感じのことがあって、本当になかなかみんながいいと思うようなやつを造ろうと思ってみんなやっていくんですけど、実際最終やるときにそのようにならないというのが、何か我々の宿命というかそういうところがちょっとありまして。かといって、普通のものやけど結構お金がかかるとかね。
- 教育長　　もちろんあれだけど、検討委員会を作るんですよ。
- 事務局　　そのようなやり方をやろうとしています。
- 教育長　　検討委員会をもう一度立ち上げていただいて、そこでやっぱりいろんな方が経験者も含めて、これから未来に向かってどういうもの造るべきかっていうのを検討すべきだと思う。そこへ持っていく意見としてこのこども未来の意見も聞いて、きちっとお伺いして検討していくということですよ。
- 事務局　　そうです。今まではワーキンググループといっても、決定権のないものの案を作るときはワーキンググループでよかったんですけども、それをいざ実施しようとするといろんなところからのやっぱり意見が出ますので、その意見だけでもって最終までやろうとしても、途中でできなくなるという、決定権を持ったものですね。
- 教育長　　それはやっぱりビジョンを先に出不ないと。ビジョンありきですよ。
- 事務局　　だから、その辺りも一番やりやすいのは、上からどんと下りてきて、こういうバンってやつがあればそれでどんどんできるんですけど、何でもいいからいいやつ言ってっていったら、何ぼでもどんだん膨らんで。例えば1年経つと、1年前にはベストのやつが1年経つと、またそれがありきたりのものになってしまうとか、値打ちがなくなってまうみたいな感じのところがあるんですよ。
- 会長　　メンバーはどうなるか分かりませんが、令和4年度は我々は参考意見は提供するという形で、この課題についてを皆さん方、各委員の方々はちょっと認識化しておいていただけたらなって思います。よろしいでしょうか。
- 事務局　　この会に集まっておられる専門家の方とか市民の方とか、おられますんでそれぞれの意見を聞いてみたいと思います。こういう会議で言ったり。
- 会長　　ここで決めるわけじゃないですから。
- 事務局　　ないので、ご意見をそれぞれに聞いていきたいと思っております。

- 会長　　また、意見が出しやすいような1つのたたき台のようなものをいただければ、そこに重ねていくということはできると思っていますので。ここでグランドデザインがどうのこうのとなると、これはもう大変なことになります。加西市100億ぐらい投入するか、そこまでできないお金の相談は。
- 事務局　　100億ぐらいしますよね。
- 教育長　　私が何か言うと私がデザインとか言うもんですから、教育長に言われたらお金掛かるっていう、こういう頭がその3人にはすごく強くあるんですよ。私はお金使えって言うてんじゃないじゃなくて、やっぱりビジョンとデザインっていうのは大変だから、そのためには機能をまず決めないといけないでしょうというような話をいろいろしてますので。
- 事務局　　おっしゃるとおり、機能、構想をほんまは作らないと基本設計にもいかないんで、それから立地調査もしないと。そこでいいだろうと思っても調査をしてみれば、ここはちょっと無理だよということもありますので、それと会長おっしゃったように結局利用率、そこなんです。そこも計算しないと大方、例えば見込みを立てないところでもいいということにはならないので、やっぱり利便性のいいところ。だいぶ前になりますけど、図書館の選定のときに携わったんですけど、やっぱり利便性のいいところじゃないとなかなか難しいという当時の結果もございまして、それはちょっと考えております。
- 教育長　　ちょっと私、せっかく皆さんいらっしゃるんで、そのことがそのままあれになりますけれども、未来型児童館についてどういうことを考えていらっしゃるか一言ずつちょっととりあえず教えていただけませんか。こういうことが大事やとか、これはしたあかんとか、順番に。
- 会長　　私は造って、稼働率ばかりが優先されるとうまく一。それは思いますね。
- 教育長　　稼働率というのは結果なので、どういうものを造るかっていうそこに自分たちのやりたいことが詰まれば、人は来るという。じゃ来させるためにはどうしたらいいかっていうことはあると思いますけれどもね。こども未来の事務局課長担当はやっぱり現実いろんなことをやってきてる人たちなので、やっぱりそういうことを大変きちとやらなくちゃっていうふうに真面目に考えてくださってるんですが、それだけでもいけない。
- 会長　　3時には終わりたいと思っておりますので、それまでちょっと頂戴できれば。
- 教育長　　できれば。自分の本当に大事だと思っているということ。
- I委員　　ぜんぼうキッズのこの前先生に会っていろいろ話聞いてたんですけど、利用率がほぼない状態らしいんですよ、今。ゼロ歳から2歳の保育料が0になったら、多分人なんて誰も来なくなってしまうっていうのが実情言われてて、私らのときはまだ子供たちがまだいたほうなので、言っても次の世代、次の世代ってできてたんですけど、もう多分無理って言うてはったんです。多分もう10月から本当に人来なくな

るなって、私らどうなるのかなって言われてた声を聞いたので、未来型児童館もどこに焦点を合わせるかっていうのがすごく大事だと思っていて、多分保育園に入れちゃったら何か遊びに行こうかなっていう場所やったら、遊ぶ公園とかで十分やと思うんですけど、それこそSTEAMもそうだし、発達障害の子たちにしてもそうなんですけど、療育っていうのが今受け入れられないっていうのが、やっぱり自分密接に感じているし、そういうママたちと話していると、将来が不安。

それ一言しか出てこないっていうか、療育がない、もう受け入れないっていう状況がやっぱり加西市には今あるので、そういう方面で手厚くしてもらわないと、STEAMがすごく良くて、うちの子もすごい楽しんでやっている部分あるんですけど、そこに繋がらないことが多いんですよね。まず、STEAMの教育を受けるまでに繋がらないと。そこまでうちの子もいけないっていうのがあるので、それを見つけるために進級で行けてたり支えてもらうこともあるので、そこでも見つかることもなかなか難しいのが、幼稚園でも全然大丈夫って言われてたのに1年生で引かかるみたいな。結局こども園、幼稚園と保育園が一緒になってしまったっていう意見もあるし、やっぱりそのへんを充実させてもらって、うまくSTEAMがみんなに本当に身に着くというふうになってほしいっていうのがありますね。

普通にみんなが来れるような、シルバーの人が来て、何か学習スペースがあってもちろんめっちゃ大事やと思うんですけど、やっぱり発達の相談とか、教育の相談とか、子育てやったりとかっていうのは専門性の人に来てもらって、どう小学校に移すのかとか、そういう方面でも力入れてもらったらうれしいかなっていうのは個人的にすごく思います。

- 事務局　大きな点を言うてもらったんですけど、無償化による今後の位置づけ、そこが一番大事なんで足踏みしてたんです。おっしゃるとおりです。
- I委員　私もそうかなと思って。何か人が多分来なくなるんですよね。
- 事務局　その大きな方針転換もせないかん。
- I委員　「アスモ」ができてどういうふう子供たちが集うかっていう。
- 事務局　おっしゃるとおりでございます。
- 事務局　一番最初、こども未来の担当になったというのは、今言うたっように子育て広場と療育とファミサポ、その辺りを未来型児童館という名前でやろうと、そういう3つぐらいの機能でやろうとしとったんです。だから、うちのほうが担当やということをやろうとしとったやつが今どんどんどんこうなってきたというわけやな。だから、ちょっとそこら辺もあるんですね。
- 事務局　すみません、口を挟みますけど、どうぞ。
- 会長　順不同でいいんじゃないのかな。
- J委員　いろいろお話聞かせてもらってて、すごい短期間の間に加西市が子育てしやすい環境をいかにすごくしっかり考えておられるっていうのがすごく伝わってき

て、子供を持つ親としてはすごく有り難いですし、どんどんどんどん進めていただければ、本当に今の子供たちが大人になったときに加西に定着できるっていう環境作りってすごく大事だなと思って、未来型児童館にしても当初のいろいろ施設の名称とか名前を見ていると、すごく盛込みがあって、すごく充実はしてるんですけど、実際それが本当にできるのかなっていうすごい不安があったんですけども、今だんだんだんだんちょっと詰め込んでいただいて、こういう柱的なのがかかできてるんだなっていうのはすごく感じてます。

西村市長もおっしゃられた加西STEAMをもし進めておられるんだったら、それを前面に押し出して、それを未来型の児童館に持っていくのは有りなのかなってすごく思って、それをもし打ち出していけばすごく注目されると思いますし、それがあから加西市、そういうとちょっと行ってみようかなっていう観光ではないですけど、そういうのをちょっとしてみたいねっていうので来てくれるっていうのは、すごく可能性が出るのかなとは思っています。

○教育長 結構、文科省とも話しましたがけれども、来年度から高校は兵庫県で実は3つしかモデル校なかったんですが、来年度からもっと増やすと。STEAM教育全面的に力を入れてやるっていうようなことを県教委も言うてますし、だから今のところ高校教育が主なんですけれども、ということはもうどんどんSTEAMは注目されていくと思います。それはなぜかというと、自分の頭で考えて自分で問題解決できる子を育てたいんだけど、どうやったらいいんやというときの一つの考え方ですので、そこを忘れなければいろんなやり方があるって、だから私もこの間課長と部長とも言ったんですけど、やっぱり未来って何なの。未来を形にしたら何になる。1つのSTEAMは大変大事な柱だというような話も今しているので、また詰めます。ありがとうございます。

○K委員 私もお話を聞いて、義務教育を取入れた児童館はいいなと思って、STEAM教育もそうだしこれが全面になるんだと思うんですけど、全体的な学びの館的な感じで、今だったらどっちかっていうと児童館のイメージは遊ぶところみたいなイメージだったんですけど、そっちよりも遊ぶところはそれこそ屋内型遊戯施設の「アスモ」があるし、今実際平日の日中に遊びに行く赤ちゃんとか幼児の子って少ないのがやっぱり現状だと思うので、だから日中と小学生とかも動けるような時間帯としてのちょっと使い分けが必要かもしれないんですけど、でも全体的なコンセプトとしては学びを全面に出して、赤ちゃんとかに対してもいろんな教育方法とかあると思うので、そういうのを取入れた遊び方みたいな感じの幼児教室的な感じになっちゃうかもしれないんですけど、あそこに行ったらいろんなことを学べるわみたいな感じのイメージの施設だと、それこそ未来に向けての進んでいく感じがするんで、それやったら高校生とかも学ぶようなプログラムがあれば活用してくれると思いますし、そういう感じはどうかと思いました。

○F 委員　私もみんなと同じ考えです。当初平成28年、多分私アンケートに答えたときは、本当に近くにいっぱい遊び場があるなって西脇とか。加西はないなということで遊び場をすごく考えてたんですけども、もうその子供も中学生になって、今はゼロ2歳児が無償化になったら、当然やっぱり遊ぶ、小っちゃい子に対してっていう場所がちょっとニーズがないかなって思います。STEAM教育って本当に取り組む中ですごく初めは難しい文言だなって思ったんですけども、生きる意味でうちの子は発達障害ですごく小っちゃい頃、I 委員もさっき言われてたんですけど、小学校の頃っていうのはもう疎外感でこの子は育てられるかなって不安で不安で、療育、療育ってすごく私は頭に有ったんですけども、今思えば本当にたくさんの中学生の中でいろんな先生やいろんな生徒たちにもまれながら、自分の立ち位置っていうのを見つけてるので、この子は発達障害やからこういうところでって特別視するのではなく、そういう子たちも入っていけるような、それがSTEAMかなって私は思うので。

何か特別の療育の場所ですよっていうよりも、未来型児童館がSTEAM教育を学べる場とすれば、そういったちょっと発達が私気になりますって別に行かなくても、不登校の子もたくさんいるので、そういった子たちが学校行けないときにその場でオンラインで学んだりできるっていうことで、今ここまでSTEAMって力を入れているならば、未来型児童館っていうのはSTEAM教育に特化したものにシフトを変えていったら、今やっているプロジェクトっていうのがすごくどんどんもっと大きく広がるんじゃないかなっていうふうに思います。

だから、STEAM教育っていうのは本当に発達が心配な子、私も初めはエリート教育かなとすごく思ったんですけど、でも実際子供たちが学んでいるのを見てたら、すごいいいこと教えてもらったり、娘も学級閉鎖とかで学校オンラインで授業を受けられてたんですけども、時代がすごい進んで本当やったら学級閉鎖で家にいたら、もう学校とのつながりなくてゲームしたりごろごろするのに、朝9時から4時までしっかりオンラインの中で授業を受けてた姿を見て、すごい時代が進んでいるし有り難いなって。息子も中学校もオンラインができてなかったんですけど、先生が慌てて持ってきてくださって、少し繋いでいただいて本当にまた学校にも行けるようになったので、だからそういう意味でもう対象者のほう、K 委員言ったように小っちゃい頃からSTEAMに触れ合う場所であって、そしてそういうSTEAMっていうのをこれから未来型児童館に取組んだら、すごい素晴らしいなって今思ってます。

○会長　今、特にお子さんを抱えていらっしゃる立場から4人のご発言を非常に大事な視点として受け止めて、その中で今加西市がどのような魅力的な未来型児童館が。個人的な意見で言うと私は三田市で前にも言いましたけど、多世代交流館で子供たちが育つためには児童だけが集まっただけでは育たないので、本当に地域の圧縮版ですよ。加西市の原型のようなものがそこにあると、いろんな世代の人が本当低い敷居の中で出入りできている、その中でお互いが確認し合って伝え合って、学び合って育

ち合っていく。まさにそれが教育の原形であろうと思うんですよね。

また、家庭でも今ごろできますけど、例えば児童館に行ったら世界の自分と同じ立場の子供たちとの通信交流ができるっていう、そんなところにしていくとやっぱりその子、その子のそこに行ったその、あるいはそこに行く多世代の人たちも学びが多いと思うんですよね。そういったところが多少快適な環境ということも必要かもしれませんし、ネット環境も必要かもしれませんけれども、そういう多機能ですよ。昔、国がこれからも施設環境にいくつかのコンセプト決めたいと。そのとき私も今の文科省のスタッフとしても入ったんですけど、1つはいろんな機能複合化ですよ。特定のセクションだけでなくいろんな多機能化、いろんなたくさんあるんだけどそれを複合化していくという考え方の地域の施設環境、それからインテリジェント化ですよ。

余りにも機械ばかり集めるわけじゃなくて、誰もがアクセスできるインテリジェントのネットの環境を作ることによって、ここにしながら世界とつながっていくとか、いろんな想いを共有できている人たちのつながっていく環境、学校もそういう形にしていこうと。それから、先ほど言った多世代の交流の拠点、市民の交流の拠点。市民の誰もがそこに行ってみたくなる、近づいてみたくなる、そこでちょっと腰を降ろしてみたくなる、こういったようなことですよ。そういったところを大事にしながら、市民のインフラ環境として位置づけるとすれば、いろんな設計の基本軸があると思うんです。4人の保護者の方からいただいたのを大事にさせていただく軸として、ちょっと検討ワーキングでいろいろ頭をちょっと柔らかくして検討してデザインを示していただければ、それに関係して我々もまた自分の立場から意見を提供できるかなとは思っています。

ということで3時になりましたので、そろそろ終わろうかと思いますが、教育長最後何か。

○教育長 いいことを言ってくれてるんやなと思って。今、先生もう宇宙とつながっているんですよ、学校とね。それとか南極とかね。それを学校でどうするかっていうのもあるんだけど、未来型児童館来たらそういうことが結構あってグローバル、本当に垣根超えてるねっていうようなことができれば、やっぱり楽しい夢が見れるじゃないですか。それは大事なことでそれをどうやって現実化していくかということを心がけたいと思います。

○C委員 教育長、やっぱりお金をできるだけひねり出していただいて。

○教育長 みんな私にお金取ってこいって。教師の人たちからしたら、ちょっと教育長お願いしますよって。私に何を。

○会長 無償化でもどのぐらいかかるってちょっと聞いてみたい。幾らかかるの。

○教育長 1億3,000万。

○事務局 1億2,000万から3,000万ぐらい。

○会長 そのぐらいものを出すという言うところから、C委員心配せんでも。

- 事務局 無償化の分だけね。ちょっと学校給食のほうはちょっと僕には。
- 教育長 給食が1億3,000万。そっちは1億2,000万。
- 事務局 うちは1億2,000万。
- 会長 加西市が200幾らの財政の中で1億幾ら。気前よくやろうって。
- 教育長 普通は大分あほやないと市長のお話では言われへんやろうって思う。思いますよ、本当に。
- 会長 でもいい決断じゃないですか。
- 教育長 大変私は誇らしく思っております。
- I委員 それは継続できるんですか。
- 教育長 もちろん継続しないと、そんな1年や2年でやめとくとか。
- 会長 そんなあほな。
- 教育長 あとはお金の使い方ですから、じゃこのときにこのビル1戸建てるか、この道1本つけるか、それをこっち側の分にはちゃんと置いてもらわんと困るんで。だから、教育っていうものにこれだけちゃんと今5つの無料化って書いてありますね。これ基本的に4億ちょっとぐらいかかります。毎年なのでね。でも、今ふるさと納税もちろん好調なんですけれど、ふるさと納税は多分いつまで続くかちょっと分かりません。でも、そういうのは教育に使ってほしいっていうふうに指定してくださっている方もたくさんいるので、大体何%やの、30%かそこらおってんやね。
- 部長 30%弱ね。
- 教育長 だから、それぐらいの人はふるさと納税を私しますけれども、これは教育に使ってくださいって指定してはる人たちもいるんで、今もちろんちょっとバブリーかもしれないけど、私バブルっていうのは全て悪いことではなくて、バブルっていうものが1つ大きく前進させる機動力にはなるだろうと。その後はどう地道にきちっと続けていくかということが問われると思いますので、だから未来型児童館もそんなちょっとやそつとではなかなかな。この間戯れじゃないんですけど、結構本気で新しい中学校を建てるにはどれぐらにかかるやろうって言うたら、50億って言われて、私もそんなかかれへんやろうって言うたら、いや35億かな。35億も大変やって。でも、中学校1つ普通に建てても15億、25億かかるねんね。それを土地買収からいろんなことから全部やとつたらそれぐらにかかります。教育長が言いよつてのようなものを建てようと思ったら50億かかりますよって言うねんから、私のせいばかりで。
- お金、お金、金食い虫みたいに思われるのとでも嫌なんだけど、でもいいものやろうと思ったらお金かかるんですよ。それをどうスリム化するかっていうことを。
- C委員 せっかくですから名物をね造るといような。新しくシンボリックな。
- 教育長 そうなんです、「加西ここにあり」みたいなね。今何もないんですよ。
- C委員 それをまた見に来てくれるような、見に行ってみみたいなね。行ってみたい

みたいなそういうものは建物はすごく大事やと思いますし、それから立地条件でやっぱり加西は歴史的な何かものが近くとかそういうものと、それから近代的なただの建物じゃなくて。

○教育長 何で私に言うねん。

○会長 いろいろこれからおもしろくなりそうですけど、時間も来ましたので、これで事務局にお返しします。

○I 委員 すみません、ちょっと聞きたいことあるんですけど、私たちの任期っていう終わりですか。

○事務局 一応2年間で5月までです。皆さん一旦。

○会長 それでは事務局へお返ししますんで。

○事務局 皆様任期としては令和2年の6月から令和4年の5月までということになっております。また改選ということが必要なのかなとは思っております。前は市民公募だったんですね。ちょっと方法などはまだ決めておりませんが、次回、それを含めましてですけども、令和4年度の第1回子ども子育て会議につきましては、まだそんなことで日程は決まっておきませんので、決まり次第また皆様に改めてご案内させていただきます。3年度は3回の実施でありました。令和4年度、またお忙しいこととは存じますが、同程度させていただければなというふうに思っております。

本日は各委員の皆様から貴重なご意見をありがとうございました。今回皆様方からいただいたご意見を基に検討を進め、次回の会議に生かせたらと考えております。閉会に当たりまして部長から一言御礼をのべさせていただきます。

○部長 座ったまま失礼します。本日は大変お忙しい中、子ども子育て会議ご参集いただき本当にありがとうございました。今回は前回十分説明し切れてなかった部分の内容を含めまして、いろいろお話をさせてもらいました。私も感想が2つあるんですけども、1つ目は私もともと中学校の教員でありまして、ずっと心がけたのがとにかく不登校なくしたいっていうのをずっと思って担任をしていました。だから、学校休みがちな子に何とか関わって、何とか学校に来てほしいっていうのをずっと思ってたんです。

今度中学の管理職になって思ったのは、全てが原因ではないんですけど、中一ギャップという言葉がありまして、小学校から中学校上がりがけにどうしても不登校が増えるっていうのがあったんで、何とか小中連携をしっかりとやりたいと思ひまして取り組みました。

今回この立場になっていろんな状況を聞く中で、小中連携もごっつい大事なんですけど、もう1個やっぱり幼小の連携がとっても大事だっていうことがよく分かりました。途中のC委員のほうからちらっと言葉が出てましたけど、僕はそのことよく分かります。だから、それを何とかなくしたいと思ひもあったので、校長会であつたりとか、教頭会のたびに幼小連携大事なんですっていうて、何とかできるところからやりまし

ようよっということをずっと提案し続けています。これからちょっとずつ変わっていくと思いますので、またよろしく願いをいたします。それこそ何もできてなかったわけじゃなくて、特別な配慮が必要な子供たち、特別支援教育が平成19年にスタートしたんですけども、それから思ったら格段の進歩というか、そういう意味での幼小の連携、それは公立だけじゃなくて私立のこども園との小学校の連携も本当によくできていると思うんです。ちょっと時間かかります。だけど、確実にできることやし大事なことなんですっていうことを伝えますのでよろしく願いします。

2つ目のSTEAM教育なんですけど、加西は今加西STEAMっていう形でとにかく学びに対してもワクワク感を持って学びたいっていう気持ち。それから、何でも挑戦したいっていう力。それから、みんなと共同してやる力。それから、もう1個は新しいものを創造していく力っていうのを付けさせてやりたいっていうことを今小中特別支援学校でやろうとしてるんですけど、それは子供たちにもっと下のこども園に通う子供たちとか、ちびちゃんにとっても同じことやと思うので、どんどんこれも広めていきたいと思っていますので、また状況等報告、この場でさせてもらいますので、よろしく願いします。

最後に子育て世代にやさしいまちっていうのを今目指して様々なことをしています。教育委員会6つの課があるんですけども、子供たちの成長に合わせてこども未来課、そして学校教育課、総合教育センターが連携して取組んでいます。そこに子供たちだけでなく保護者、家庭の支援という意味で生涯学習課、それから図書館、教育総務課も一緒になって支えながら今取組を進めています。これからも子ども子育て会議におきまして様々な政策であったりとか、未来型児童館の在り方についてまた報告もさせていただきますので、その都度いろいろとご意見とかご感想、またご要望等お示ししていただきたいと思っていますので、これからもどうかよろしく願いいたします。本日は本当にありがとうございました。